

福島県における
子どものストレスアセスメント調査
結果報告
(保護者のストレスアセスメントを含む)

福島大学 子どもの心のストレスアセスメントチーム
筒井雄二 (共生システム理工学類)
富永美佐子 (人間発達文化学類)
高原 円 (共生システム理工学類)

概要

•目的

先の震災が子どもたちの心に及ぼす影響をいかに少なくするか、すなわち、心のケアの問題が急務となり、心理臨床家によるメンタルケアの実践が注目を集めているところです。現在のメンタルケアの中心は、地震や津波を原因とするPTSD(心的外傷後ストレス障害:いわゆる”心的トラウマ”)の問題です(これは阪神淡路大震災のときも同じでした)。福島県も地震と津波を経験したという点では、PTSDへの対応が欠かせないことは言うまでもありません。しかし、それ以上に現段階では原発事故が子どもたちの心に大きな影響を与えています。

原発が引き起こした心の問題の中心は、ストレスとフラストレーションだと私たちは考えています。ストレスやフラストレーションの問題は、PTSDの問題とはまったく別の問題であり、対処の方法も別であると考えています。しかし、残念ながら現段階ではPTSDだろうが、ストレスだろうが、区別されることなく『心のケア』が実践されているのが現状です。福島の子どもたちが本当にかかえている心の問題を、科学的にきちんと調べ、その対策を社会や国に広く訴えていくことが必要だと私たちは考えています。